



一年を振り返って

矢西学区委員長 古澤 吉則

本年度は、新型コロナが少し落ち着いてきたところ、昨年末からのインフルエンザの感染爆発で特効薬が不足するほど猛威を振るってきました。

そんな中でも、当委員会の主要事業である「いきいきふれあいクラブや一人暮らし高齢者激励訪問、福祉委員研修会」も予定どおり実施することができました。

新たな取り組みとして、最近話題となり、高齢者施設でも取り入れている「eスポーツ」をいきいきふれあいクラブで導入しました。高齢者でも気軽に、身体を動かしながら「ボーリングゲーム」を楽しむことができました。

その反面、最近の傾向として参加者が固定化され且つ減少してきており、新たな参加者を増やすという懸案事項も今後解決していく必要があると思っています。当学区でも一人暮らし高齢者や

高齢者のみの世帯など災害時に取り残されてしまいがちな方々をどのように支援していくかという課題もあります。

その一つとして、災害時避難行動要支援者を支援する取り組みのモデル地区として当矢作西学区の関連団体が協力してその登録者の個別避難計画を作成しているところであります。今後はこの個別避難計画に基づき、災害時にいかにしてスムーズな避難につなげるかが課題となってきます。

いずれにしても、現状として当福祉委員会メンバーも高齢化しており、いかにして地域福祉を推進していくかも今後の課題の一つです。新たな福祉委員がこの地域の福祉活動に参加し、心も体も元気で思いやりある対応で、矢作西学区が笑顔あふれる街になることを願ってやみません。



中部運輸局より宇頭駅ふれあい花壇に表彰状



<https://ya24fk.blogspot.com/2024/06/index.html>

岡崎市学区福祉委員会連絡協議会15周年記念 パネル展示

矢作西 学区の活動

愛媛県名：古瀬 吉則

学区のデータ（４月１付岡崎市統計ポータルサイトより集計）								
平成 31 年	人口	6,409 人	世帯数	2,752 世帯	高齢化率	23.6%	年少人口割合	12.9%
令和 6 年	人口	6,352 人	世帯数	2,889 世帯	高齢化率	24.4%	年少人口割合	12.1%

学区の特色ある活動 <https://ya24k.blogspot.com/>

ブログ『矢西の掲示板』 矢作西学区の電子掲示板です

福祉委員会	子育て支援	シニア交友会	防災ネット
いきいきクラブ	広報福祉だより	交友会だより	社教イベント
PCめだかクラブ	福祉講座・高座	そば同好会	お祭り



2024年度福祉委員視察研修会

講座

つながる地域づくり

講師 岡崎市ふくし相談課 課長 齊藤哲也氏

お詫び プレゼン資料はスライド48枚に及びすべてを掲載できませんので、勝手ながらそのうちの4枚のみここに掲載させていただきます。全文は <https://ya24fk.blogspot.com/2025/01/2024.html> をご覧ください(金山)



社会とのつながりがなくなると

地域包括ケアシステム

外出頻度が減る

社会性の低下

運動機能の低下

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「医療」「介護」「予防」「住まい」「生活支援」が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現

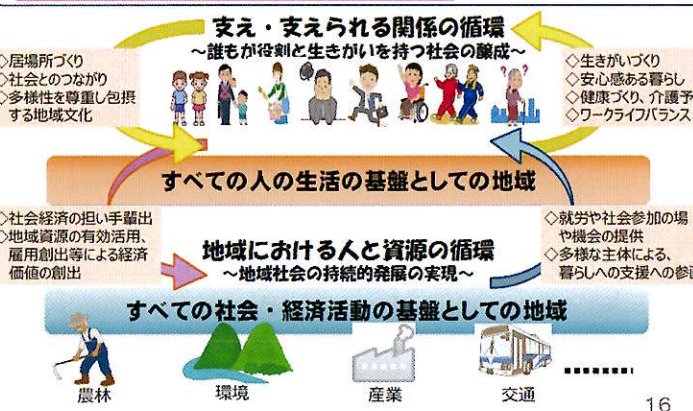


15

地域共生社会

地域共生社会の実現に向けて

◆制度・分野ごとの『縦割り』や『支え手』『受け手』という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会



16

制度・分野ごとの『縦割り』や『支え手』『受け手』という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

⇒「縦割り」という関係を超える

・制度の狭間の問題に対応
・介護、障がい、子ども・子育て、生活困窮といった分野がもつそれぞれの専門性をお互いに活用する
・関係機関・関係者のネットワークの中で対応するという発想へ

⇒「支え手」「受け手」という関係を超える

・一方向から双方向の関係性へ
・一方向の関係性では、本人の持つ力を引き出すという発想になりにくい
・課題を抱えている人でも、地域の中で居場所や役割を持つことにより生きがいを持って暮らせるように

⇒「世代や分野」を超える

・世代を問わない対応
・福祉分野とそれ以外の分野と一緒にできることを考える(例：医療、労働、教育、住まい、農業など)

⇒住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく

・地域住民や地域の多様な主体が参画し、暮らし続けたいと思える地域を自ら生み出していく

19

福祉委員だから何かやってあげよう、じゃなくてですね、皆さんも社会参加してるだけで、アルツハイマーなどの認知症になる確率がぐっと下がってるわけなんですよ。

高年者センター岡崎(美合)にて

質疑応答質問要旨

小山 個別避難計画(災害時に自力での避難が困難な高齢者や障害者などの避難行動要支援者について、市町村が作成する避難支援計画)書についてお尋ねします。

矢西学区の計画書作成はほぼ終わっている状況ですが、地域に合致した計画書なのかとはなはだ疑問に思うところがあります。矢西学区は土砂災害が起きるような地域でもないですし、水害についてもその多くが当てはまらない地域ですが、「どこに避難しますか、だれが支援者になりますか」と、そういう一律の計画書になっています。

また避難支援者に関しても「組長さんが」とかいう話もありますが、地域住民のつながりが薄くなり隣りに住んでいる人も知らないという昨今、単に「組長さんが」ということはどうなのかとも思います。

避難が必要な地域とそうではない地域みたいなところも含めて個別避難計画書のあり方を再考していただけないでしょうか？

山本 「福祉の充実」の名の元で色々な法律、規則が定められています。しかし、それが個人の自由、身勝手、気ままな行動を助長していることが多いと思います。『他人から干渉をうけない』『様々な役も拒むことができる』等々、自由で身勝手な生活が送れる、だから、アンケートで「今の生活に満足している」と回答している人が77%もいるのだと考えます。不登校の児童が40~50才になっても引きこもったままで社会生活を送れず、事件を起こした事例も多数報告されています。人が生きていく上では守るべき義務があると考えますが、それが疎かにされているようで歯がゆく思っています。また最近、プライバシー保護の観点からなのでしょうが、近所の人を何をしているか分からなくなりました！ですが、近所の人々を知らないで町民としての活動ができるのでしょうか？ もっと近所の人を知る、触れ合う機会が必要だと考えます。いかがでしょう？



	養護老人ホーム (高年者センター隣)	特別養護老人ホーム	老人保健施設	介護医療院	グループホーム	ケアハウス
入居できる方	おおむね65歳以上の方で、家族関係・経済・住宅等様々な事情で自宅での生活が困難と市役所が判断した方	日常生活に介護が必要で、自宅での介護が困難な方状況によるが、おおむね要介護3以上認定されている方	病院から自宅へ退院するために、リハビリが必要な方自宅へ帰ることを目指し、要介護1以上認定されている方	病状が安定し、長期療養が必要となる要介護以上の高齢者の方	岡崎市内のグループホームが対象「要支援2」「要介護」の認定があり認知症と診断されている方	60歳以上の方(ご夫婦の場合は、いずれか60歳以上)で日常生活に介護を必要としないこと
身体・精神の状況	日常生活に支援が必要だが、比較的に自分で動ける方、精神障がいがある場合は軽度の方	日常生活に介護が必要な方	介護を必要とされ、リハビリが必要とされる状況の方	長期の療養が必要な方(嚥下吸引や経管栄養の方の受け入れや、看取りも行われます)	歩くことができ、長期的な医療が必要とせず、共同生活ができ、障害者力など著しい周辺症状がない方	日常的に介護を必要とせず、日常生活を送ることができ、共同生活に適應できる方
家庭・住居の状況	家庭環境や自宅の献上が本人の生活に支障があると市役所が判断した方	特にありません	特にありません	特にありません	特にありません	収入、仕送り等があり、利用料が負担できる方
申請方法	岡崎市役所の長寿課	直接施設に、申込下さい	直接施設に、申込下さい	担当医の協力が必要です	直接施設に、申込下さい	直接施設に、申込下さい
	本人と岡崎市、老人ホーム	施設と直接契約となります	施設と直接契約となります	施設と直接契約となります	施設と直接契約となります	施設と直接契約となります